校友時報

昭和60年10月3日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

# 祝60周年
# 松陵の歴史また新たに

## 季節の窓

### 還暦の能高強し松の影

林田民男

六十周年記念式典をむかえた能高は勉学やスポーツで大活躍している。校庭の多くの松もたくましく育っている。

## 各種記念行事挙行される

今年で本校は六十周年を迎えることになり、それにあたっての記念事がいくつか行われることになった。その行事について次に紹介する。

**○記念式典**

十月三日（木）午前十時より本校体育館で開かれる。式典の次第は

一、君が代斉唱
一、学校長式辞
一、来賓祝辞
一、表彰状贈呈
一、生徒代表のことば
一、校歌斉唱

となっている。表彰状の贈呈として、歴代校長、歴代PTA会長に感謝状が、また本校に十年以上勤務した先生には、功労賞ならびに授与されることになっている。

**○祝賀会**

式典の後、午後一時より行われる。

**○記念講演**

式典と同じ日にやる予定であったが、講師の都合により、三十一日、十一時から本校体育館で行われることになった。講師に、岡野俊一郎氏を、お迎えして開かれる。メキシコ五輪のサッカー監督であった岡野氏は東大卒で、現在、日本体育協会理事、日本サッカー協会理事、JOC総務主事、副教審委員などの要職につかれている。演題については、まだ未定である。

これらの行事の他、六十周年を記念して、同窓会会議が十年ぶりに発行され、六十周年記念誌（本この度、六十周年記念により次の四十三名が各賞を受賞することになった。この四十三名はいづれも今まで本校に貢献して下さった方々である。

## 四十三名 晴れの受賞

▼学校長感謝状贈呈者

歴代校長
平野清太郎、渡辺敏雄、草弭幸太郎、小林繁春

文化後援会長
武田三郎、棚橋晴生、下妻正順、小杉山啓一、越後喜一

体育後援会長
嶋田正道、佐々木環、大塚俊二、桐越豊、西田健一

PTA会長
松本国三、塚本達郎、渡辺英一郎、大川昭夫

▼学校長功労賞受賞者

体操部監督・中村栄喜
軟式野球部監督・小玉徳征

▼永年勤続表彰者

国語科
高木洪爾、仙葉清志、藤田昭夫

社会科
小玉徳征、久保田豪、納谷喜代松、高橋克次郎

理科
伊勢義広、相場修二、平山達真一

数学科
武田正義、谷内成治、納谷和夫

技師
武田重信

芸術科
浅野洋一

体育科
中村栄喜、渡部耕四郎、田口男

私費職員
小林和子

学校医

歯科・塚本明

薬剤部
北村秀二

眼科・小林茂、耳鼻科・宍戸五郎

校の歴史が記されたもの）と校章入りペン立て付き文鎮の記念品が生徒会員に渡される。

また、六十周年記念事業として、陸上競技場の周囲に松を植えている。1m50cmの黒松が北部森林組合によって、千百五十本植樹され、総額、三百七十九万五千円相当となった。また、納谷農園によって、百八十万円の予算で、黒松の成木を六十本植えている。これらの植樹は、今年度秋田県学校緑化コンクールで秋田営林局長賞の受賞対象となった。

## 六十周年に思う

校長　三田元悦

今日は本校創立六十周年記念日、人間に例えるならば還暦を迎えた年にあたるわけで、誠にめでたい日である。最近多くの学校で十年刻みで創立記念の行事を行っているが、本校でも戦時中、中止となった昭和二十年の二十周年を除いて十年ごとに記念行事を行ってきている。

今、六十周年を迎えるにあたり、創立記念の意義について少し考えてみたい。

去る九月も半ば過ぎたある日、旧制四期生で元八幡製鉄所に勤務していたという先輩の方が、突然学校を訪問された。法事があって向十年ぶりかで能代に帰ったとか、この十月三日の創立記念式典にはとても出席できないので、せめて学校だけでも覗いておきたいと足を運ばれたのである。私は北九州市からおいでの先輩を案内しながら、式典当日には体育館の正面に旧制十五期生の佐々木

校で過ごした青春の思い出、友の回想、恩師への追憶にひたらせ、これまで自分の歩んできた道程を振り返ってみる大切な機会を与えてくれるものであり、同時に明日からまた歩き始める自分の道

念日というものはみんなが母校で過ごした青春の思い出、友の回想、恩師への追憶にひたらせ、これまで自分の歩んできた道程を振り返ってみる大切な機会を与えてくれるものであり、同時に明日からまた歩き始める自分の道

と思ったのである。そして創立記念日というものはみんなが母校で過ごした青春の思い出、友の回想、恩師への追憶にひたらせ、これまで自分の歩んできた道程を振り返ってみる大切な機会を与えてくれるものであり、同時に明日からまた歩き始める自分の道

若かりし頃の思い出の糸をたぐられ、さぞや束の間ではあったが安らぎを得て帰られたのではないかと思ったのである。そして創立記念日というものはみんなが母校で過ごした青春の思い出、友の回想、恩師への追憶にひたらせ、これまで自分の歩んできた道程を振り返ってみる大切な機会を与えてくれるものであり、同時に明日からまた歩き始める自分の道

満参議院議員の筆になる校訓を掲額することや、松陵健児の名にふさわしい学校環境を整備するため松の苗木を二百五十本植樹したことなどを説明、昔の恩師や当時の学校の様子など話かけて語って校門を去って行かれた。私は後姿を見送りながら大変感慨深くなった。